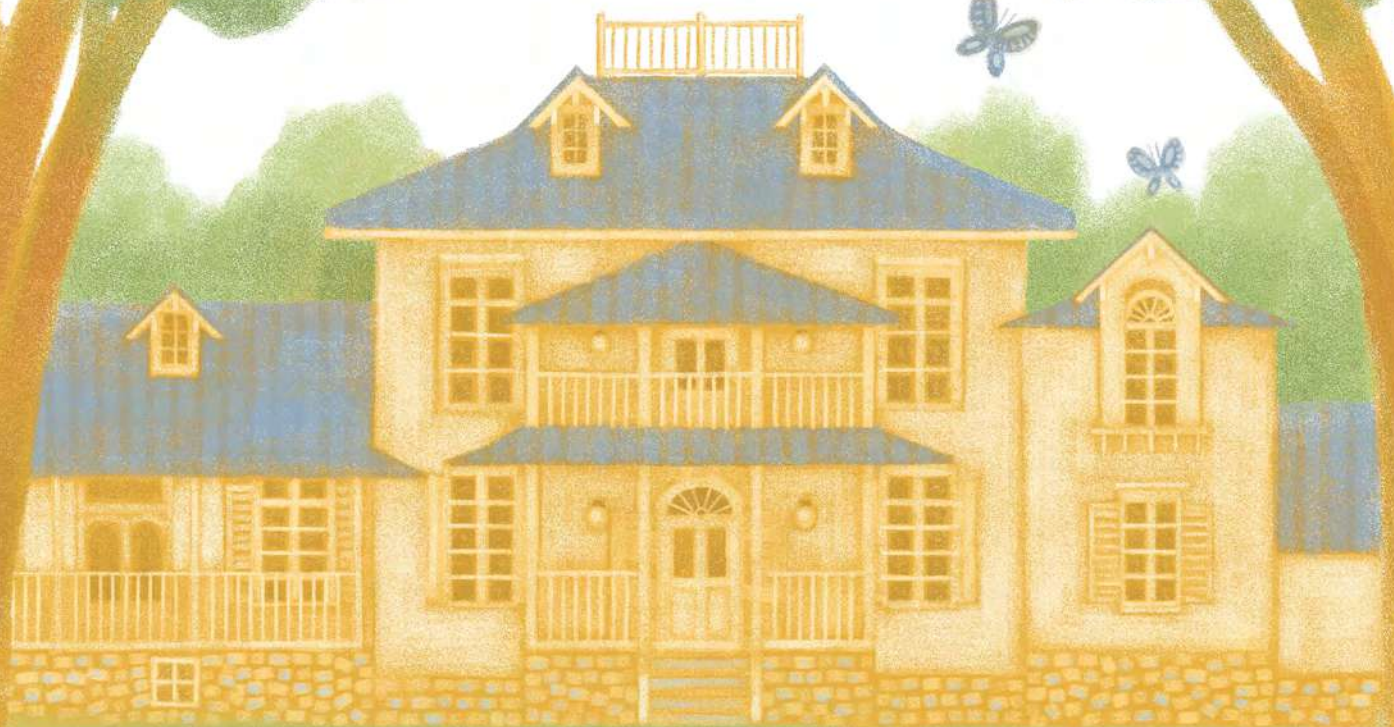


那須野が原の ものがたり





那須野が原の ものがたり



ここは、自然豊かな那須野が原にある、
とあるおやしき。

古い、古いおやしきで、100年以上前、
明治時代からここに建っています。



森に囲まれたおやしきには、いろいろな動物たちが
すみついています。

ほら、木陰や、おやしきの影なんか、ひそんでいます。

おや、屋根の上には、ムササビがいます。

ムササビは、あしの間のまくを広げて、スーッととびます。

屋根裏にしのびこんでいたムササビが見つかった

という古い話が残っているくらい、

今も昔もムササビは那須野が原のおやしきのまわりにいます。

ムササビたちは、
部屋の中の、古いけれどよく手入れされた
美しい調度品を見るのが大好き。
今日も窓からのぞいています。
じつはこのムササビ一族、
昔おやしきにしのびこんだという、
あのムササビの子孫たちです。
このおやしきができたときから
ずっと代々、すみついているのです。



ご先祖^{せんぞ}の時代^{じだい}から、しのびこむのはお手^てのもの。

人^{ひと}に気づかれないように

ススととんで、やってきたのは屋根裏^{やねうら}です。

ここには、人^{ひと}には知られていないヒミツの壁画^{へきが}が。

一族^{いちぞく}がすみついたころのことを、

ご先祖^{せんぞ}たちが残^{のこ}しているのです。

ここには、こんな物語^{ものがたり}がかいてあります……



……これは人の世界でいう「明治」という時代の話。

住人が少なく、動物たちが

のんびりとくらしていた那須野が原に、

あるときからたくさんの人間がやってきた。

動物のみんなはびっくり大あわて。

人間たちがいったい何をするのか、

木陰にかくれてしばらく見ることにした。





どうやら、^と都会^{かい}からきた^{ひと}えらい人^{ひと}たちが、
この場所^{ばしょ}を切り拓^きこうとしているらしい。
えらい人^{ひと}たちは、「華族^{かぞく}」というそうぞ。
着物^{きもの}ではなくて、洋服^{ようふく}を着^きていて、
ひげを生^はやしたりぼうしをかぶったりしている。

^{うみ}海の向^むこうの^{がいこく}外国^{がいこく}から入^{はい}ってきた
^{あた}新しい^{ぶん}文化^{ぶん}にあこがれて、
^{おお}大きな^{のうじょう}農場^{のうじょう}なんかをつくりたいらしい。



たくさんの人^{ひと}が土^{つち}を耕^{たがや}したり、
小屋^{こや}を建てたり、作業^{さぎょう}は進^{すす}んでいく。
そんなある日^ひ、
大きな動物^{おお どうぶつ}がやってきた。
那須野^{なすの}が原^{はら}の森^{もり}にはいない動物^{どうぶつ}。

モーとなくのはウシ、
メェとなくのはヒツジといって、
人^{ひと}がつくった農場^{のうじょう}でくらしてる。
ウシもヒツジも、いいやつだ。

人間^{にん げん}たちは毎日^{まい にち}、大い^{おお}そがしだ。

川^{かわ}のほとりにいくと、ここにも大勢^{おお せい}の人^{ひと}たちが、
がけ^{あな}に穴をほったり、石^{いし}を積^つんだりしている。

いろいろなところにいるから、

わたしたちも人間^{にん げん}になれてきたよ。



どうやら、川にほった穴は、
人間がくらすところに水をもってくるためだったようだ。
農場の人たちもウシもヒツジも、
水がたくさん使えてうれしそうだ。
華族の人も、満足そうにうなずいている。



ある日、久しぶりに華族の人のところへ行ってみた。

すると、今まで見たことがない、大きなものをつくっていた。

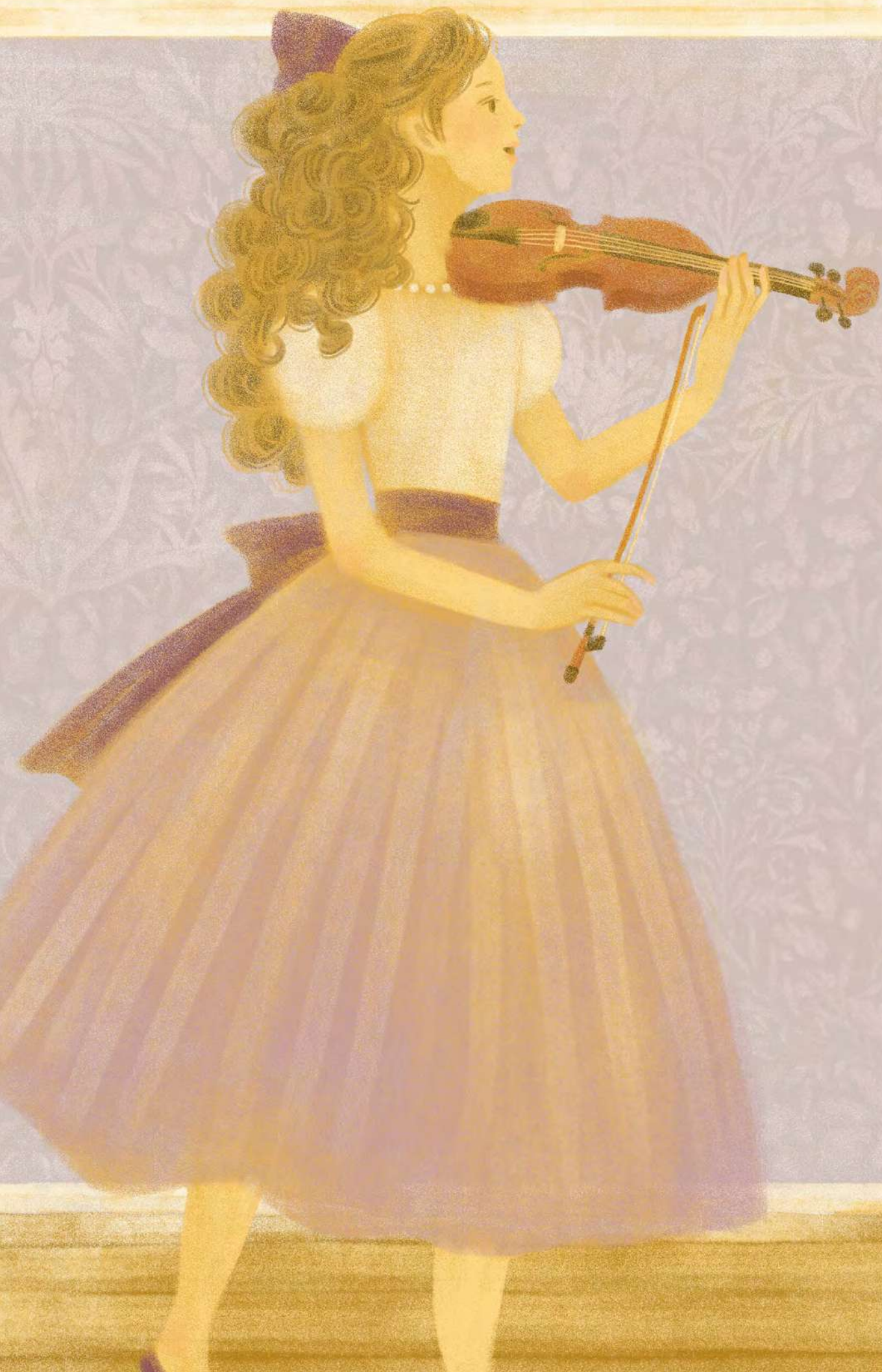
人間がすむ、家のようだ。

華族の人は、まわりのようすをうかがうわたしたちに、

「うちができたら、すむといい」と笑いながら言ってくれた。

なんと、やさしい人間だ。





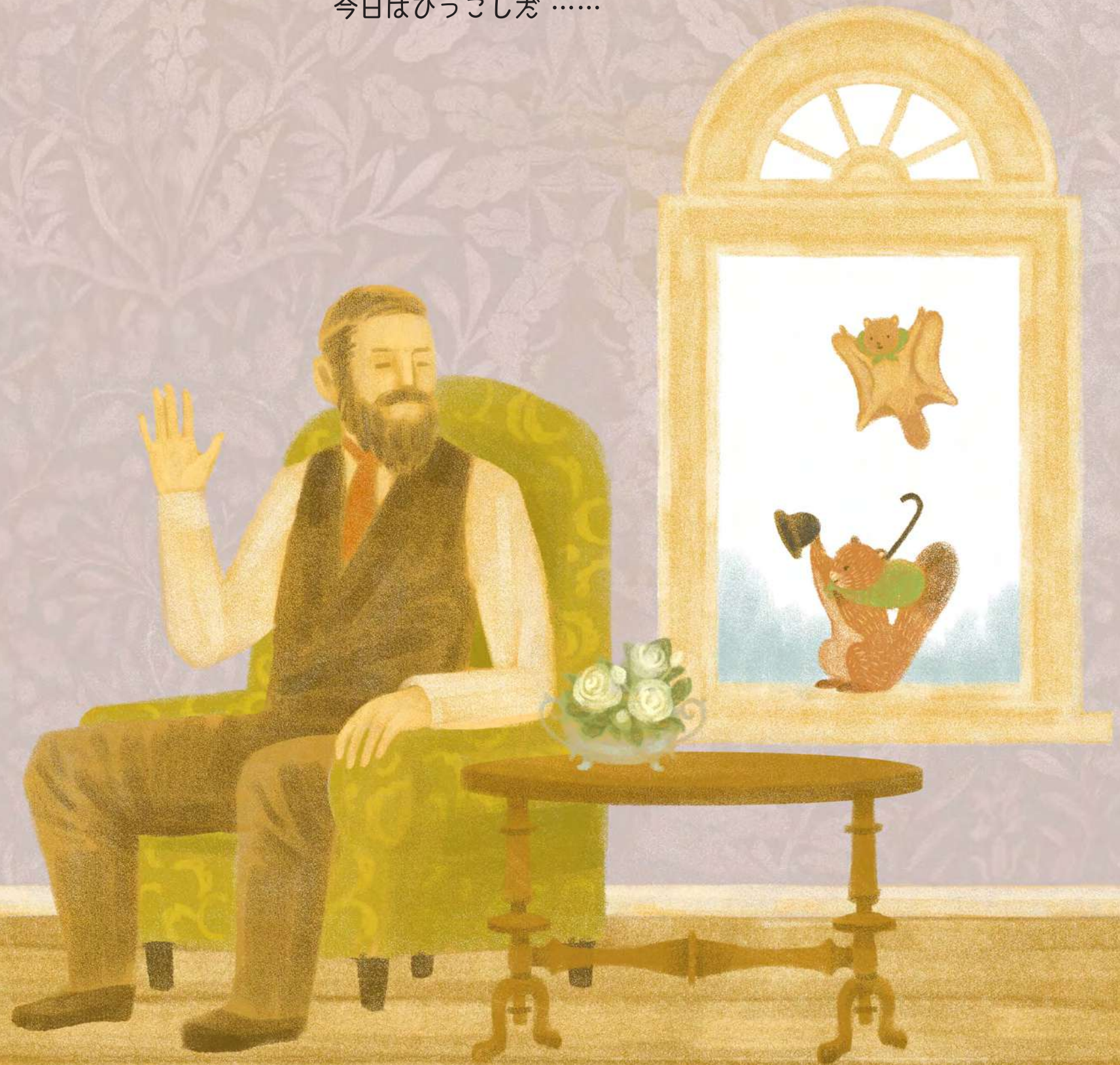
しばらくたって、リっぱなおやしきができた。

華族^{かぞく}たちが農場^{のうじょう}やおやしきをたくさんつくって、

那須野^{なすの}が原^{はら}は昔^{むかし}よりも人^{ひと}がたくさんくらしている。

わたしたちも、おやしきのまわりで楽しくくらそう。

今日はひっこしだ ……





…… というわけで、ムササビ^{いち ぞく}一族は、
かつて華族^{か ぞく}がすんでいたおやしきに
いまもすんでいるのです。
そして、那須野^{な す の}が原^{はら}と、那須野^{な す の}が原^{はら}を開拓^{かい たく}した華族^{か ぞく}の物語^{ものがたり}を、
この先^{さき}も語り継^{かた}いでいくことでしょう。

明治時代からの開拓の地 「那須野が原」

那須地域に広がる台地「那須野が原」。
本州最大級の原野が広がっていたこの地に、
農場がつくられたのは、明治時代になってから。
農業に必要な水がとぼしかった那須野が原は、
人々の努力で原野が開拓され、
発展していったのです。

那須野が原って どんなところ？

栃木県の北部に位置する那須野が原。
日本遺産では、那須地域のうち、那須塩原市、
大田原市、矢板市、那須町の4つの市町を
那須野が原としています。
中央を蛇尾川と熊川が流れ、
北東に那珂川、南西に
箒川が流れています。



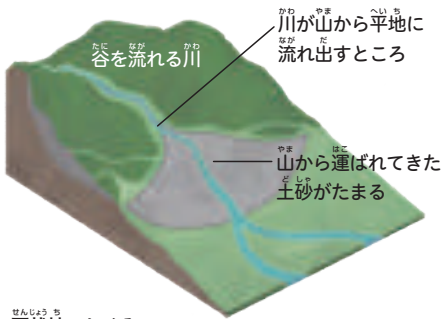
緑色の部分が那須地域、
その中の茶色い部分が那
須野が原。



那須野が原

① 最大の扇状地

扇状地とは、川のはたらきによって、山から運ばれてきた土砂がおうぎ状に積もった地形です。那須野が原は、複数の扇状地が合わさってできた、日本最大級の「複合扇状地」なのです。



扇状地のしくみ
土砂が積もった地層は谷の入口で最も厚く、谷から離れるにしたがい薄くなる。

② 広大な原野があった

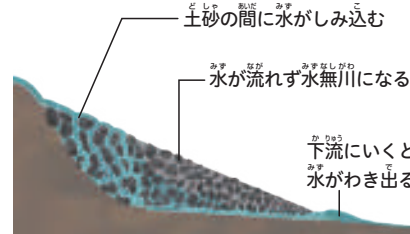
その昔、那須野が原一帯には、那須西原と那須東原という2つの広い原野がありました。原野にはカヤなどが生い茂り、家の屋根（茅ぶき屋根）の材料や馬のエサなどとして大切に活用されていました。



明治時代の原野を思わせるカヤ原の風景。生活に使うためのカヤをかる場所を「カヤ場」という。

③ 水のない「蛇尾川」

川なのに水が流れていない蛇尾川は、那須野が原の象徴的な風景のひとつです。水が地下にしみ込んでしまうために水無川となり、ふだんは川底の石がごろごろと現れています。大雨が降ったときなどには地表に水が流れます。



蛇尾川の上流は土砂が厚く積もっているため、水がしみ込み地表には水が流れない。下流にいくにしたがって土砂が少なくなるため、水がわき出して地表に水が流れる。

水がないときの蛇尾川



水があるときの蛇尾川



日本最大級の 原野開拓と「明治貴族」

明治時代は、日本に西洋文化が入ってきて、国が発展していった時代。国を豊かにする、さまざまな産業がさかんになりました。そんな時代に、本州最大級の原野が広がっていた那須野が原の、農場としての利用が注目されました。そして、明治の貴族階級の人々である華族や地元の名士によって、この広い原野が切り開かれていったのです。



▶那須野が原を開拓した華族の原動力のひとつには、広い領地をもっていた西洋の貴族に対するあこがれがあった。



▲那須野が原の中にたたずむ松方別邸。

那須野が原を潤す「那須疏水」



那須野が原の開拓を進めるにあたり、大きな問題がありました。それは「水」です。水のとばしい那須野が原に水をもたらすため、地元の名士たちが国にはたらきかけてできたのが、那須疏水です。

那須疏水の歴史

明治時代、那須野が原を開拓するために各地から人々が集まってきました。しかし、那須野が原は水がとばしく、大勢の人の飲み水をまかなうことができません。そこで、地元の名士である印南丈作や矢板武が政府にかけあい、1882年（明治15年）、飲用水路がつくられ、那須野が原の北東を流れる那珂川から水を通しました。しかし、農業用の水を得るためにはさらに大きな水路が必要でした。政府にくり返しお願いをし、1885年（明治18年）、とうとう那須疏水が開かれたのです。



印南丈作
1831年（天保2年）、現在の日光市に生まれる。名主などをつとめ、1880年（明治13年）、那須開墾社という農場をつくり初代社長になる。



矢板武
1849年（嘉永2年）、現在の矢板市に生まれる。名主や県会議員をつとめ、1888年（明治21年）、那須開墾社2代目社長となり、のちに矢板農場をつくる。

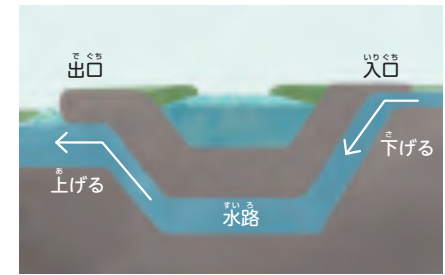
◀旧取水施設内部のトンネルのようす。東隧道（上）と西隧道（下）。

▼那珂川の切り立ったがけに、トンネルを掘ってつくられた那須疏水旧取水施設。現在はこの近くにつくられた、新しい取水施設が使われている。



どうやって地下に水路を引いた？

那須疏水から各農場へ水を引くには、蛇尾川を横切って地下に水路を通す必要がありました。その方法は、水無川という地形を逆手にとったもの。地中を掘ることなく、川の石をよけて五角形に石を積んで、トンネルをつくってからまた石をかぶせるというものでした。こうして地下に1本の長い水路ができあがりました。



◀蛇尾川の地下に通る水路。水が上がつて出てくる垂直方向にU字形に水路をう回させることで水を送っている（伏越、サイフォン水路）。



① 中が空洞になるように、五角形に石を積み、ならべる。



② もとあった川底の砂利や砂で、石組のトンネルをうめる。



③ 1本のトンネルができあがり、地下のトンネルに水が流れる。

那須疏水の今

取入口の場所を何度か変更しながら、那須疏水は、現在も使われています。今も那須野が原一帯に水路がはりめぐらされ、農業用水や工業用水、水力発電などに利用されて、人々の役に立っています。



疏水マップ



▲那珂川の水を取り入れる那須疏水の取入口。むかつて右のがけにあるのが旧取入口、現在使われている左の施設は1976年（昭和51年）に完成した。

◀蛇尾川の地下の水路を通り、水が上がつてくるサイフォン出口。出てきた水はまた地上の水路を流れていく。

日本三大疏水

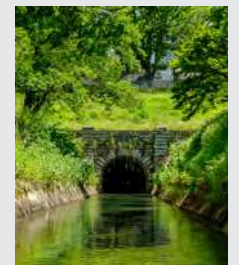
疏水とは、水源から水を引くためにつくった水路のことです。那須疏水は、福島県の安積疏水、滋賀県と京都府をつなぐ琵琶湖疏水とともに、日本三大疏水のひとつにあげられています。



安積疏水



那須疏水



琵琶湖疏水

開拓と農場

1885年（明治18年）に描かれた那須野が原の牧場の風景。奥に肇耕社（p.30）の事務所と、手前に放牧されているウシが見られる（高橋由一「鑿道八景」より下野那須郡三島村平野牧牛）。



▲（上）大山農場のウシと牧夫と家畜舎（昭和前期）。
（中）千本松農場のヒツジの放牧と松方別邸（昭和初期）。写真：個人蔵
（下）千本松農場のトラクター（1931年（昭和6年）ごろの写真）。

カヤ原と石ころが多く、やせた原野を開墾し、那須野が原にはじめて農場ができたのが、今からおよそ140年ほど前。40もの農場ができ、そのうち華族の経営する農場は19農場にもなりました。

華族によって開拓された 昔の農場の風景

那須野が原の農場開拓では、まず県営那須牧場が1878年（明治11年）に開かれました。その後、地元の名士たちにより結社農場や個人農場がつけられました。ウシやヒツジを育てたり、ブドウ栽培をしたりと、西洋の農作物がつけられていきました。さらに東京から近いこともあり、華族たちも農場経営に乗り出します。

明治時代の西洋農具

「東京三田農具製作所製造農具類之図1」

開拓からおよそ140年 今の牧場の風景

千本松農場
Senbonmatsu Farm

松方正義（p.30）が開いた千本松農場がもとになっている牧場です（現在はホウライ株式会社が経営）。1946年（昭和21年）からウシの飼育など酪農をはじめ、今では観光牧場としても人気があります。今の那須野が原には牧場がいくつもあり、明治時代の放牧風景のおもかげを残しています。



▲春の風景 土づくり



▲夏の風景 作物の収穫



▲秋の風景 牧草がり

みなみ が おか ぼくじょう
南ヶ丘牧場
Minamigaoka Farm



酪農中心の観光牧場。1948年（昭和23年）から開拓され、1964年（昭和39年）ごろから酪農専業になりました。

な す まちきょうどう
那須町共同
利用模範牧場
Nasu Communal Farm

乳用牛の効率的な育成を目的とした共同牧場です。1968年（昭和43年）に完成しました。

おお た わら し
大田原市
大野放牧場
Grazing Farm of Oga
in Ohirawara city



市営の放牧場。原野が広がる国有林野を、1965年（昭和40年）に造成して放牧場にしました。



那須野が原を 開拓した華族とは

那須野が原に競うように農場をつくり、開拓をおしすすめた
明治時代の貴族階級の人たち。正確には「華族」といい、その中には、
明治維新や明治政府で活躍した人物も多くいます。



▲鹿鳴館貴婦人慈善会
高官の夫人たちが鹿鳴館で
パザーを行っているところ。

▶青木周蔵の娘、青木ハナ。周蔵は、外交官としてドイツにおもむいた際に出会ったドイツ貴族の令嬢エリザベートと結婚して、一人娘のハナが生まれた。



那須野が原に ゆかりのある華族

東京から近い場所に、西洋の貴族のように領地をもちたい。そんな夢を抱いていたのか、多くの華族が、那須野が原に農場や別荘をもちました。那須野が原と関係深い華族を紹介しします。



青木周蔵
(1844-1914)
外交官、政治家。子爵。明治14年に青木農場を開く。



大山巖
(1842-1916)
軍人、政治家。公爵。明治14年に加治屋開墾場、34年に大山農場を開く。



西郷従道
(1843-1902)
軍人、政治家。侯爵。明治14年に加治屋開墾場、34年に西郷農場を開く。



品川弥二郎
(1843-1900)
外交官、政治家。子爵。明治16年に品川開墾を開く。



乃木希典
(1849-1912)
軍人、教育者。伯爵。明治24年、狩野村石林に別荘を建てる。

写真：乃木神社蔵



平田東助
(1849-1925)
官僚、政治家。伯爵。品川開墾（のちの傘松農場）を引きつぎ、品川信用組合設立。



松方正義
(1835-1924)
政治家。公爵。明治26年に平本松農場を開く。



三島通庸
(1835-1888)
官僚。子爵。明治13年に鞆耕社、19年に三島農場を開く。



山縣有朋
(1838-1922)
軍人、政治家。公爵。明治17年に山縣農場を開く。

写真：山縣有朋記念館蔵



山田顕義
(1844-1892)
軍人、政治家。伯爵。明治21年に山田農場を開く。

写真：山田資料館蔵

明治時代の 「華族制度」

日本の貴族階級は、江戸時代までは天皇につかえる公家などのことを指しました。対して「華族」は、明治時代に新しくつくられた貴族階級の身分です。明治政府のもと国の制度が変わり、それまで藩主（大名）がおさめていた藩がなくなって政府が管理する県となり、大名は藩主でなくなりました。身分の高い人たちの地位を保つため、公家にくわえて大名、さらに明治維新に功績のあった人も華族に組みこみました。爵位は上から順に、公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵の5つに分けられ、特権と義務などが定められました。華族制度は、1947年（昭和22年）、日本国憲法が制定されるまで続きました。



華族の暮らし

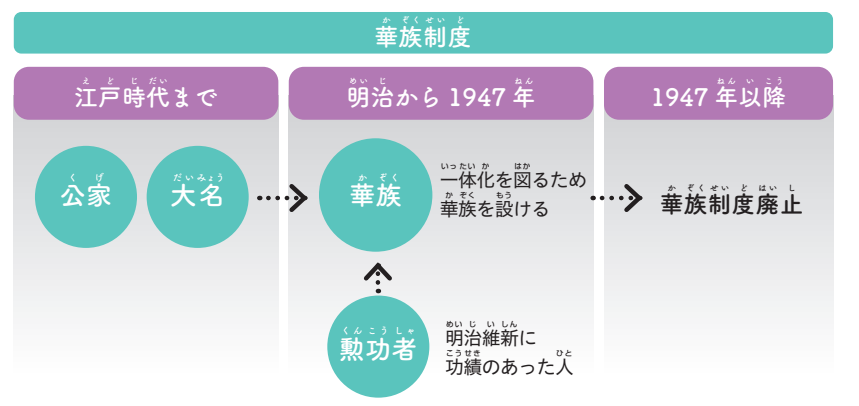
華族は、国から支給されたお金をもとに投資をするなどして、豊かな暮らしを送る人が多くいました。また西洋風を取り入れる人も多く、鹿鳴館などの社交場で外国の人々と交流したり、舞踏会でおどったりと、優雅な暮らしぶりでした。



▲鹿鳴館
西洋の制度や文化を取り入れ、近代化をすすめる国の政策により、外国の外交官などと交流するためにつくられた洋館。
写真：社団法人 霞会館



▲洋食器類
松方正義邸で使用されていたもので家紋が入っている。皿類はイギリス製。ナイフ、フォーク、スプーンなどはフランス製。



▲貴族院のようす
明治時代の帝国議会（現在の国会）には衆議院と貴族院があり、貴族院の議員になれるのは皇族や華族など、特権階級の人たちだけだった。



▲華族の洋装
（左）文官大礼服（1925年（大正14年））。（右）文官大礼服と女性のローブ・デコルテ（レプリカ）。

明治貴族の夢の結晶 「洋風別邸」

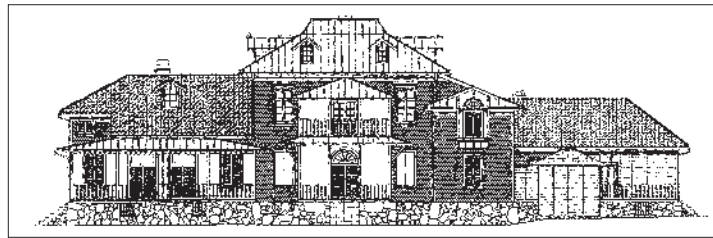
那須野が原には、近代建築の粋を集めた
洋風別邸が点在しています。西洋をめざす華族たちが
自らの農場内に築いた「夢の跡」です。



旧青木家那須別邸 Viscount Aoki's Country Villa in Nasu

美しいドイツ風建築

青木周蔵（子爵）が、1888年（明治21年）、青木農場内に建てた洋風別邸です。
ドイツ公使を長くつとめ、ドイツ貴族の令嬢エリザベートと結婚した周蔵は、
“ドイツ通”で知られた人物。建物の設計は、ベルリン工科大学で建築学を学ん
だ松ヶ崎萬長で、中央棟3階の屋根裏部屋の木組みをはじめ、ドイツ式の建築
工法が用いられています。



▲移築前の青木家別邸立面図。

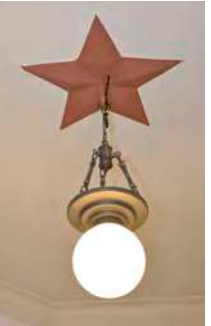


▲2階寝室。洒落た雰囲気。

大山別邸 Duke Oyama's Villa

重厚な赤レンガ造り

大山巖（公爵・元帥）が大山農場内に建
てた、「日本館」とよばれる和風別邸と
洋館をあわせもつ別邸です。当初は和風
別邸だけでしたが、1905年（明治38年）
ごろ、農場内で製造された赤レンガを使
い、重厚なつくりの洋館が増築されまし
た。南側正面に切妻屋根の玄関を張り出
し、レンガ造りのアーチをほどこした外
観が印象的です。



▲現在、栃木県立那須拓陽高等学校の農場に大山別邸がある。洋風別邸と日本館は、わたり廊下でつながっている。
玄関ライトの星形レリーフは、陸軍の星をかたどったもの。

山縣有朋記念館 General Yamagata Memorial Museum

建物にY・Aのデザイン

山縣有朋（公爵・内閣総理大臣）が晩年を過ごした、小田原の別邸「古稀庵」
にあった洋館のひとつ。有朋没後の1923年（大正12年）に起きた関東大震災
により崩壊しましたが、翌年、有朋ゆかりの山縣農場内（現在地）に移築・再
建されました。サンルームの外壁やドアなどにほどこされたY・A（山縣有朋
の頭文字）のデザインが目立ちます。



▲紺色のすっきりとした洋館。庭には狛犬が1つ置かれているが、狛犬はふつう2つで1対。対となるもう1つは、皇居内にあるとも伝えられる。



▲ドイツ式建築構造の屋根裏部屋。



▲実際に使われていたといわれている馬車。



▲玄関。つくられた当初のものが今も使われている。



▲外壁をおおうスレート。2種類の形がある。

明治が薫る「松方別邸」を 大解剖！



和と洋が入り組んだ不思議空間

松方正義（公爵・内閣総理大臣）は、1903年（明治36年）、自身が所有する千本松農場地内に木造2階建ての別邸を建設します。1階は石づくり（またはレンガ造り石貼り）、2階は木造板貼りの洒落た建物は、松方家の管理のもと、昔の姿をとどめたまま今日まで大切に保存されています。非公開の建物内部を今回、特別にご紹介します。



▲居間 食堂と同じ壁の色でも、調度品が落ち着いた色味であたたかみを感じる部屋。



▲正面玄関 瓦屋根の玄関ポーチが突き出ている。



▲食堂 赤いじゅうたんにオレンジの照明、ブルーグレーの壁と、重厚かつ華やいだ色使い。

1F

玄関を入ると、廊下の右手に応接間と居間、左手に書斎があり、玄関の正面に食堂が位置しています。すべて洋室で、天井のレリーフや照明器具、窓の意匠や昔の調度品など、貴重なインテリアに目をうばわれます。



今に残る美しい調度品

松方別邸の調度品の多くは、昔のものが残されています。時を経て美しい色味やつやが増した家具など、今ではめずらしい昔のデザインや形のインテリアばかりです。



▲食堂の壁際にある木製のベンチ。小ぶりでかわいらしいデザイン。



▲玄関にあるコートかけ。鏡やかさ立てなどがついていて多機能。



▲居間にある一人がけソファ。ほかの調度品と調和する落ち着いた風合い。



▲居間の暖炉の上のオイルランプ。ランプの下に油が入るつくり。



▲2階に上がる階段



▲大正天皇と昭和天皇が皇太子時代に宿泊されたことのある由緒ある和室。



▲駐日アメリカ大使のライシャワー氏がお気に入りだった部屋。たたみ敷きに暖炉がある。



▲屋根裏部屋 和小屋という伝統的な日本建築の工法が用いられている。

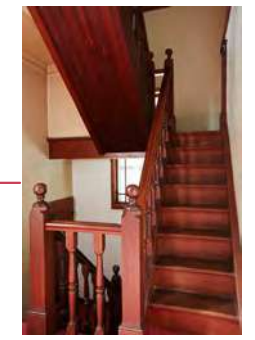
▲暖炉 ウシやヒツジなど牧場の風景が描かれたかざりタイル。



▲バルコニー 陽の光が入って明るいガラス張りの長いバルコニー。

2F

2階は和洋折衷のインテリアが特徴。天井の高いたたみ敷きの和室に、大理石や木製の暖炉が備えつけられています。暖炉は部屋ごとにデザインがちがう凝ったつくり。サンルームのようなガラス張りのバルコニーも当時のまま残されています。



▲屋根裏に上がる階段



A Romanric Tale of
the Development of Nasunogahara

開拓浪漫を語りつぐ 那須野が原のスポットをめぐる

広大な那須野が原エリアには、この地の歴史と文化にふれあえる史跡や施設がいっぱい！
四季折々の美しさを楽しみながら、明治の開拓時代ゆかりの地をめぐるませんか。

夏 御亭山緑地公園 (大田原市)
那須野が原の東側に位置し、山頂(512.9m)に広がる御亭山緑地公園からは、那須野が原の田園風景を眺めることができます。

那須野が原の四季

春 烏ヶ森の丘 (那須塩原市)
明治時代から花見の名所として知られる烏ヶ森の丘。1885年(明治18年)、那須疏水開削の起工式が行われた地でもあります。



冬 西郷神社 (大田原市)
西郷隆盛の実弟で、西郷農場を経営した西郷従道(侯爵・元帥)を祀る神社。全国でもめずらしい彫刻をほどこした石造りの社殿が見所です。



秋 大山参道 (那須塩原市)
大山農場を開設した大山巖の墓所に通じる参道。秋には、モミジ並木が鮮やかに色づき、紅葉の名所になっています。

那須野が原を知る

◆ 那須野が原博物館 (那須塩原市)



那須野が原の開拓と自然・文化のいとなみなども、幅広く展示する施設。三島通庸(子爵・警視総監)の農場事務所跡地にあります。

◆ 矢板武記念館 (矢板市)

山縣有朋ら当時の元勳と交流が深く、矢板市近代化の原点を築いた矢板武の旧宅。那須野が原の開拓に関する資料も展示されています。



◆ 大田原市歴史民俗資料館 (大田原市)



民俗資料を中心に、地域の生活文化を紹介している資料館。傘松農場事務所の図面など、開拓関係の資料も保管されており、複製が展示されています。

◆ 那須歴史探訪館 (那須町)

旧石器時代からの那須町内に関する歴史を通史やトピックで紹介している施設。常設展示のほか企画展や特別展などで那須町ゆかりの史資料や美術品の展示も行っています。



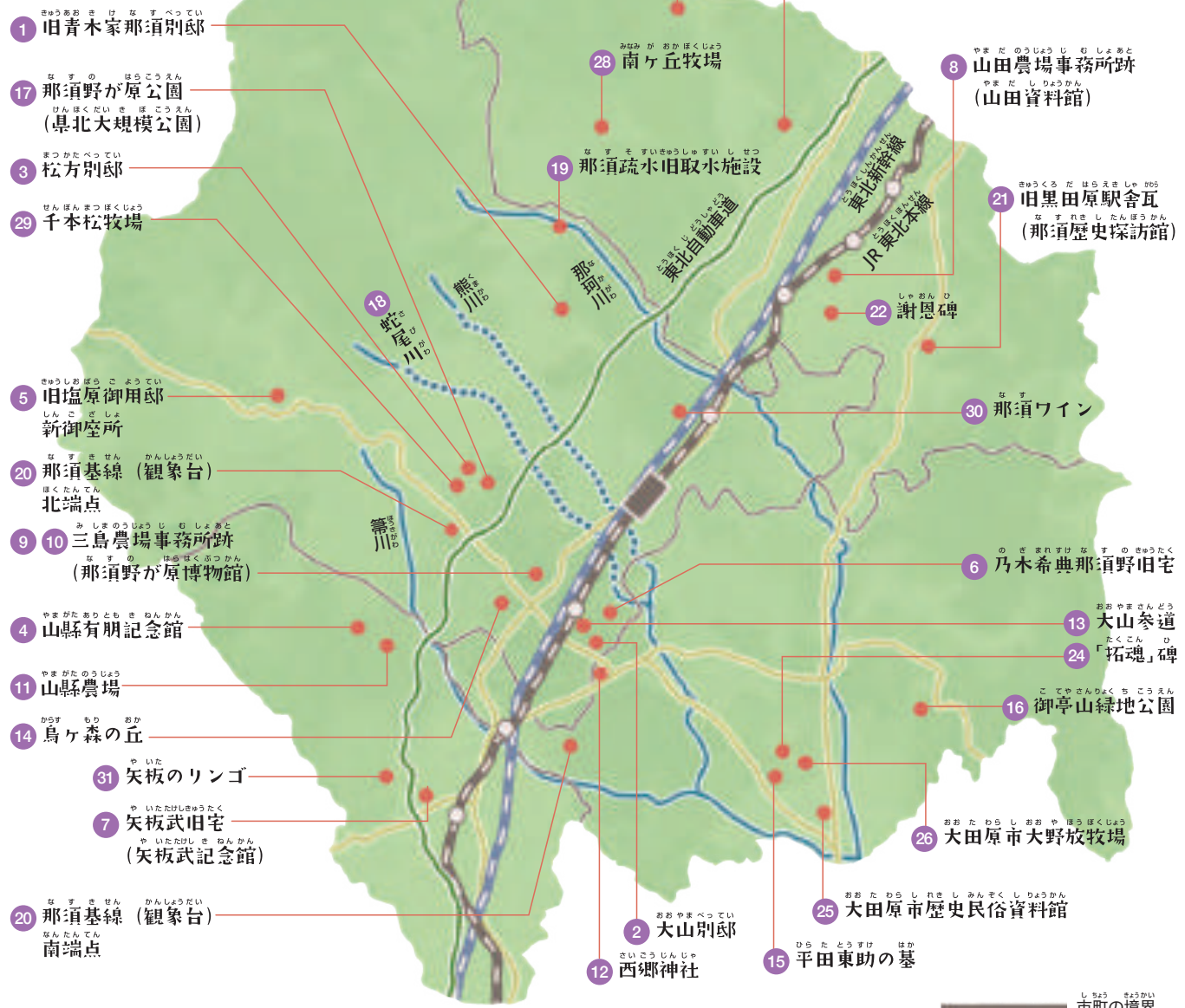
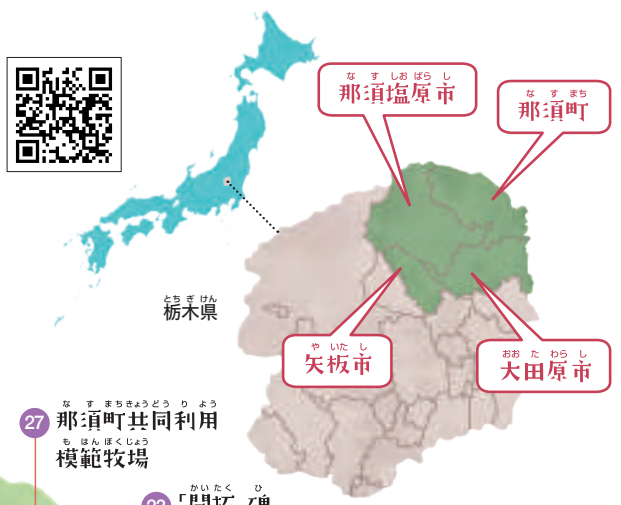
◆ 山田農場事務所跡 (山田資料館) (那須町)

明治維新で功績をあげた山田顕義(伯爵・司法大臣)の農場事務所跡地にあり、山田農場および山田家ゆかりの資料が展示されています。



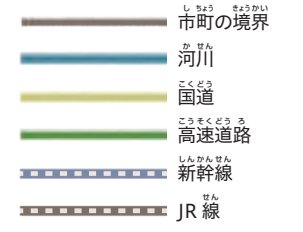
那須野が原 日本遺産文化財マップ

歴史に名を残す人々の別邸や、多くの牧場、那須野が原を知ることができる博物館や資料館など、那須野が原には、31もの開拓や華族にまつわる文化財があります。どれも、那須野が原の貴重な財産です。



- 1 旧青木家那須別邸 ▶ p.32
- 2 大山別邸 ▶ p.33
- 3 松方別邸 ▶ p.34
- 4 山縣有朋記念館 ▶ p.33

5 旧塩原御用邸
新御座所
三島通庸が建築した別荘が前身。1903年 (明治36年) に皇室に献上され、翌年、御用邸が運営された。



6 乃木希典那須野旧宅
乃木希典 (伯爵・陸軍大将) が1892年 (明治25年) に設計した、農家風の別荘。



7 矢板武旧宅 (矢板武記念館) ▶ p.36

8 山田農場事務所跡 (山田資料館) ▶ p.37

9 10 三島農場事務所跡 (那須野が原博物館) ▶ p.36

11 山縣農場
1884年 (明治17年) に山縣有朋 (公爵・内閣総理大臣) が開墾した農場跡。



12 西郷神社 ▶ p.37

13 大山参道 ▶ p.37

14 烏ヶ森の丘 ▶ p.37

15 平田東助の墓
品川弥二郎 (子爵・枢密顧問官) から譲渡された傘松のうじよ、けいせい、ひらたとうすけ、はくしゅう、ないむ、だいにん、は、ひ農場を経営した平田東助 (伯爵・内務大臣) の墓碑。



16 御亭山緑地公園 ▶ p.36

17 那須野が原公園 (県北大規模公園)
当時の原生林が残る旧千本松牧場、旧三島農場にまたがった県営の大規模公園。



18 蛇尾川 ▶ p.24

19 那須疏水旧取水施設 ▶ p.26

20 那須基線 (観象台)
1878年 (明治11年) に設けられた測量基準線の北端点と南端点。



21 旧黒田原駅舎瓦 (那須歴史探訪館)
駅舎は老朽化により取りこわれ、その名残の瓦が那須歴史探訪館に展示されている。



22 謝恩碑

山田顕義および山田家への謝意を記した碑。



23 「開拓」碑
戦後、那須野が原に入植した旧軍人や満州からの引揚者の敵しい開拓のようすが刻まれている。



24 「拓魂」碑
「戦後開拓」としての金丸原開拓の歴史と、開拓初代の氏名を記す記念碑。



25 大田原市歴史民俗資料館 ▶ p.37

26 大田原市大野放牧場 ▶ p.29

27 那須町共同利用模範牧場 ▶ p.29

28 南ヶ丘牧場 ▶ p.29

29 千本松牧場 ▶ p.29

30 那須ワイン
渡邊葡萄園は明治創業の、ブドウづくりから一貫して行う国内でも最も古いワイナリーのひとつ。



31 矢板のリンゴ
1914年 (大正3年)、山縣有朋が青森から技師をよび苗木を植栽したのがはじまりとされている。





